

# 神奈川県立鎌倉高等学校 令和2年度 学校評価目標設定

	視点	4年間の目標 (令和 年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複眼的多面的なものの見方、論理的対話的で深い学びを実践するためのカリキュラム・マネジメント構築。</li> <li>・揺るぎない基礎学力の上に立つ、高度で知的好奇心を刺激する授業づくり。</li> <li>・総合的な探究の時間を中心に、根拠に基づく科学的思考力、課題解決力と表現力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①授業改善に係る教員研修会を計画的に実施する。</li> <li>②論理性・科学的リテラシーの視点を踏まえた授業改善と、総合的な探究の時間の内容の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ICT機器のさらなる利活用に向けた研修、探究活動を支援するための研修等を計画的に実施し、生徒の進路希望実現に資する効果的な指導に取り組む。</li> <li>②理数教育を推進させるため、探究活動「K-ARP」に通年で全校で取り組み、生徒の課題発見及び課題解決力と表現力を養う。</li> <li>・妹校交流及びその成果を通して、グローバル人材の育成に資する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①主体的、対話的、深い学びの実践に組織的に取り組めたか。</li> <li>・ICT機器利活用に対する職員の取り組みやすさが増したか。</li> <li>・長期休業中に発展的な補習が実施できたか。</li> <li>②「K-ARP」の成果として、生徒が根拠に基づく推論と検証結果を、ふさわしい形で発表することができたか。</li> <li>・英語資格認定試験に取り組むことや海外姉妹校交流の成果を、将来のグローバルリーダー育成の機会とすることができたか。</li> </ul>
2	生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会性、協調性、体力、自己管理能力、人権意識を養うための環境整備。</li> <li>・部活動の活性化。</li> <li>・一人ひとりの個に応じた支援を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒の人権意識を高めるための効果的な支援を行う。</li> <li>②一人ひとりの生徒状況を把握するためにきめこまかな生徒情報の共有化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①SNS等の最新情報を研究し、トラブルの未然防止につなげるとともに、LGBTへの理解等人権を意識させる機会を設ける。</li> <li>②課題を抱える生徒の情報を共有し、一層の組織的かつ有効な支援を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①SNSトラブル防止と、LGBT理解が促進され、生徒の人権意識を高められたか。</li> <li>②生徒情報交換会、ケース会議を通じて、定期的な生徒情報の共有が実施されたか。</li> </ul>
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人ひとりのキャリア形成に則した支援体制の整備。</li> <li>・難関国公立大学への合格者数を増加させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒一人ひとりが主体的に高い進路目標を設定し、それに到達する学習プランを構築し、達成させていくための仕組みを作る。</li> <li>②進路実現に向けて個々の興味や適性を深く掘り下げられるよ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学習計画を立てる習慣をつけ、定期的に達成度を確認できるツールを活用する。</li> <li>②講演会や、大学説明会などを設定し、外部からの刺激により、個々の興味を膨らませる仕組み作りを行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学年ごとに、PDCAサイクルを確認できるようなツールを用意し活用できたか。</li> <li>②適切な進路選択につながる時宜に応じた支援ができたか。</li> </ul>

	視点	4年間の目標 (令和 年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
			うな、機会を設ける。	う。	
4	地域等との協働	・コミュニティ・スクールを軸として、地域、同窓会、保護者、大学、分教室等と連携・協働を深化させる。	①学校運営協議会を軸にした地域との協働により、地域に根ざした鎌倉高校のありかたを模索する。 ②藤沢養護学校分教室との交流を継続的に行う。	①コミュニティ・スクール各部会の提言を受けとめ学校運営に必要な支援に関する情報を有効利用する。 ②授業や特別教育活動を通して分教室と本校生徒との交流・理解が深まるように支援する。	①学校運営協議会各部会の学校運営に係る必要な支援に関する情報を効果的に運用できたか。 ②分教室との交流を通して生徒間の交流が深まり、協力関係を築くことができたか。
5	学校管理 学校運営	・全校一丸となって学校改革に臨み、安全で信頼される魅力ある学校づくりに組織的に取り組む。 ・教員の働き方改革を推進するための意識改革を図る。	①事故・不祥事に関する情報の共有及び校内研修体制の充実を図り、事故・不祥事未然防止に努める。 ②職員・生徒が一体となって災害に強い学校づくりを行う。 ③職員の長時間勤務を是正する。	①職員会議等で研修会を日常的に実施することで事故不祥事防止に対する個々の意識を高める。 ②災害と事故を想定した避難訓練、防災訓練、DIG訓練等を実施する。防災マニュアルの見直しと、職員生徒への理解の浸透を図る。 ③勤務時間内に会議を行うことを徹底する。	①時宜に適した効果的な研修会が開けたか。 ・職員の事故・不祥事防止に対する意識を高めることができたか。 ②避難訓練、DIG訓練等を実施し、具体的な災害等に対する意識を高める事ができたか。 ・帰宅班、帰宅経路等の確認ができたか。 ③勤務時間内に会議を終えることができたか。